

理学部・理学系研究科

I	研究水準	研究 5-2
II	質の向上度	研究 5-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究活動の実施状況については、教員約 250 名に加えて、大学院生等の総数が約 1,400 名を擁する研究組織の特徴を十分に活かして高い水準の活発な研究活動が行われている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金（特別推進研究、特定領域研究）並びに 21 世紀 COE プログラムで合計約 16.5 億円を獲得していることが著しい特徴である。これらは、科学研究費補助金（約 15 億円弱）を上回る実勢を示しており、大型の研究資金の獲得を維持していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、理学部・理学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理学部・理学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、理学のほぼ全分野にわたり、数々の重要な成果を上げている。国際的にもトップレベルのジャーナルに多くの論文を継続的に発表しており、世界的にも先学的・開拓的研究が進められている。研究成果の論文は、平成 17 年度の約 1,000 件の水準から平成 19 年度の約 1,400 件を上回る件数に増加している。また、学会等での発表数は、平成 16 年度での約 2,000 件の水準から平成 19 年度の約 2,800 件を上回る件数に増加しており、21 世紀 COE プログラム等での研究員増加の成果が見られる。本務教員当たりの研究員数は、2.1 名にのぼり、全国平均の 0.5 名を大きく上回っている。研究業績の中には、社会的貢献においても顕著なものが多数ある。これらの状況などは、優れた成果である。

以上の点について、理学部・理学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、理学部・理学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。